

こどもらぼプロジェクト

代表者 北川 菜々子（経済学部経済学科3年）

1. 目的と概要

このプロジェクトの主な目的は3つある。1つ目は、地域の小学生が地域理解を深める機会を提供するということである。この活動を通して、子供たちが今のうちから地域に対する理解を深めたり、将来に活かしたりすることができるような場を創出したい。2つ目は、仏生山地区を様々な人々が関わりあう地域にするということである。プロジェクトの活動には、大学生、小学生はもちろん、保護者や地域の方々にも多く参加して頂いているため、幅広い年齢層が集まることで普段は出来ないような交流を生み出していくことを目指したい。3つ目は、仏生山地区の方々と香川大学生が共に活動することで、地域活動への相互理解を深めていくということである。このプロジェクトには仏生山地区の地域振興に貢献したいと考えている大学生が多く在籍しており、地域の方々と活動を重ねていくうちに、大学生も地域振興についての多くの学びを得ていきたい。

現在、仏生山地区では、地域活動における若者の参入の減少が課題の1つとして挙げられている。そこで、今年度の活動では、仏生山地区の小学生と香川大学生が協力して、畑を耕して野菜を育てたり、仏生山地区の様々な場所に設置して地域の方々が座れるようなベンチを製作したりした。これらを通して、以前よりも仏生山地区の地域活動への若者の参加が活発になってきているのではないかと考える。

2. 実施期間（実施日）

令和3年7月1日から 令和4年2月28日まで
（実施日：ベンチ作り12月19日 / 1月16日）

3. 成果の内容及びその分析・評価等

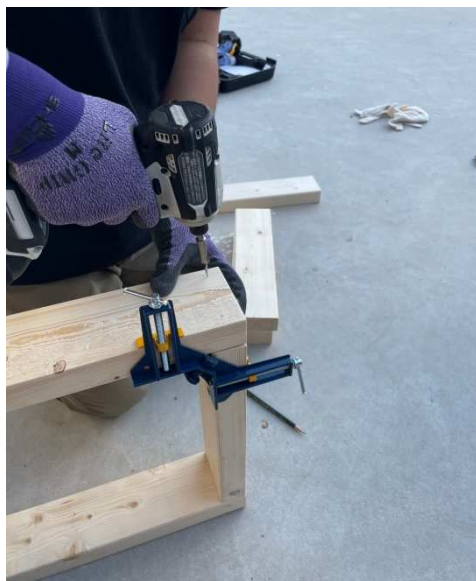
このプロジェクトで得られた成果は主に3つある。まず1つ目は、参加者の募集についてである。仏生山元気の素部会の方の協力のもと、小学生を対象に、本プロジェクトと、同時期に並行して進めていた経済学部学生チャレンジプロジェクトの両方を1つに合わせた募集チラシを作成した。そして、仏生山小学校で配布して頂いたところ、計16



名の小学生が本プロジェクトに参加してくれることになった。参加者の定員は20名としていたため、その半数以上の人数が参加してくれたことになり、参加者の募集はおおむね成功したと考えられる。

成果の2つ目として、全2回で行われたベンチ作りでは、合計9脚のベンチを製作することができた。製作初日は10人の小学生が参加し、仏生山元気の素部会のご協力のもと、ベンチの骨組みを完成させる工程を行った。製作するにあたって、安全面の指導や製作工程の説明は、あらかじめ絵をつかった画用紙サイズのパネルを用意し、わかりやすい説明を行うことが出来た。材料についても、あらかじめ定められた寸法にカットしておくことで、作業の簡易化が図れたと考えられる。また、製作していく途中で、ベンチの片側に座るとベンチが倒れる、という設計ミスが判明したが、参加者のご協力やアイデアもあり、当日の内に、倒れないように改善・補強することができた。この設計ミスについては、ベンチを設置する場所や、それを使う人の条件を決定していく上で、必要な寸法やサイズが定まるまでの時間がかかりすぎたため、十分に設計したモックアップを作成することができなかったのが原因であると考えられる。製作二日目では、8名の小学生が参加し、すべてのベンチに防腐材を塗る工程を終え、ベンチ作りは達成した。また、製作したベンチの脇には、仏生山らぼプロジェクトと参加してくれた小学生の名前の二つが記載されてある。

成果の3つ目は、製作したベンチを、仏生山地区の各地に設置したことである。昨年11月頃から、仏生山元気の素部会の協力のもと、仏生山地区でベンチを設置したいという団体・個人を募集した。募集をしたところ、仏生山小学校、南芝居町集会所、上百相八幡神社、個人宅の計4か所に、設置場所が決定した。計画では、今年令和4年2月に、小学生と一緒に設置場所まで運ぶ予定であったが、新型コロナウイルス感染防止のため、対面の活動を自粛したため、2月28日に大学生だけで運ぶこととなった。設置したベンチの振り分けとしては、仏生山小学校に3脚、南芝居町集会所に2脚、上百相八幡神社に2脚、個人宅に2脚設置した。



↑ベンチ試作の様子



↑ベンチ作りの様子



↑ベンチ設置の様子(左：南芝居町集会所、右：仏生山小学校)

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

この事業によって、地域のみなさまに香川大学の魅力を伝えることができたと考える。カフェを行う町家で地域の方と話をしたり、こどもらぼや仏生山小学校への訪問で子どもたちと交流を深めるなど、様々な場面で私たちのプロジェクトのことや香川大学が「地域に根ざした」大学であることについて知ってもらうことができた。

地域社会に与えた影響としては、私たちの活動を知り、関わってくださっている方を笑顔にすることができたと考える。こどもらぼで製作したベンチを仏生山小学校や集会所などに置かせていただいた際には、道ですれ違う方や小学校の先生、集会所の方など多くの方から「ありがとう」と言ってもらい、私たちの活動で仏生山地区を笑顔にできた。また、こどもらぼの際には、子供たちが楽しそうに活動している姿を見ることができ、子供たちにとっても充実した時間を届けることができた。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

この活動を通して、責任感を持って行動することが出来るようになったと考える。佛生山らぼプロジェクトは他のプロジェクトに比べると人数が少ないが、その分一人一人に役割があり、活動にしっかりと関わることができるため、それぞれが責任感を持って自分の役割を果たすことができた。また、毎週のミーティングでカフェの営業やこどもらぼの活動について意見を出し合い、話し合いをすることによって、自分の考えを言葉にし、相手に伝える力も身についた。さらに、仏生山地区で多くの人と関わり、支えてもらいながら、私たち自身が中心となって活動することによって、一つのことを作りあげていくことの難しさを知ると同時に、積極的に行動することや、自主性を持って活動することの楽しさも学んだ。

6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

<反省点>

反省点は主に 7 つある。1 つ目は、準備期間に何を、いつまでにするかが分かっておらず、ベンチ作り当日が近づいてから慌ただしく準備をした点である。2 つ目は、天候に左右されてしまい、直前も慌ただしかった点である。3 つ目は、受付がスムーズにいかなかった点である。4 つ目は、他の班のフォローにまわり、自分の担当の班のフォローが疎かになってしまうということがあった点である。5 つ目は、当日に、大人が端に座るとベンチがひっくりかえってしまうことが分かり、急遽、補強部分の木材の長さを変更することになってしまった点である。6 つ目は、試作に参加できず、ベンチを作る一連の流れを経験したことがない状態で参加した学生がいた点である。7 つ目は、午前に比べ、午後の参加者数が大きく減ってしまった点である。

<感想>

自分たちで準備し、イベントを開催することによって、一人一人が周りを気かけながら積極的に行動することができた。イベント当日は子供たちが意欲的に取り組んでくれた点はとても良かった。また、悪天候や補強部分の木材の長さの変更などの問題に直面したが、地域の方の手厚いサポートや地域の方との協力によってベンチ作りを無事に完成させることができた。このことから、地域の大人と子供の交流を図るだけでなく、大学生と地域の方たちや子供たちとのコミュニケーションをしっかりとることもできたと考える。

7. 実施メンバー

代表者	北川 菜々子	(経済学部 3 年)		
構成員	井上 雅美	(経済学部 3 年)	日野 風花	(経済学部 3 年)
	藤澤 希恵	(経済学部 3 年)	鴨井 悠里	(創造工学部 3 年)
	西口 菜々子	(創造工学部 3 年)	福井 百花	(創造工学部 3 年)
	西川 奈美穂	(創造工学部 3 年)	犬田 朋花	(経済学部 2 年)
	奥野 唯織	(創造工学部 2 年)	難波 穂乃花	(経済学部 2 年)
	門脇 優夢	(経済学部 1 年)	小林 龍生	(経済学部 1 年)
	小松 真子	(経済学部 1 年)	徳田 凜	(創造工学部 1 年)
	伊勢田 乃愛	(創造工学部 1 年)	谷 匠峰	(創造工学部 1 年)
	藤井 美月	(創造工学部 1 年)		

8. 執行経費内訳書

配分予算額		176,529円		
執行経費(品目等)	数量	単価(円)	金額(円)	備考
木材 2×4材 1300mm	67	820	54,940	
木材 1×4材 900mm	10	429	4,290	
ビス	6	768	4,608	
木材防虫防腐シート	7	3,137	34,650	
刷毛	10	304	3,040	
2×4定規	1	658	658	
クランプ	4	878	3,512	
絵具	1	1,205	1,205	
筆	2	548	1,096	
皿取錐	1	2,035	2,035	
やすり	60	41	2,460	
軍手(大人用)12双入り	3	239	717	
軍手(子供用)10双入り	3	1,138	3,414	
ポスカ	1	3,300	3,300	
ボールペン	3	509	1,527	
バインダー	4	962	3,848	
交通費 瓦町-仏生山	15	660	9,900	
交通費 栗林公園-仏生山	4	500	2,000	
交通費 琴電 伏石-仏生山	1	380	380	
合計			137,580	